



from London

# 過去と未来が息づく ロンドン

金融街として知られるシティ・オブ・ロンドン (The City of London、通称「シティ」) はロンドン中心部にあり、広さが約1平方マイル (1マイル≒1.6km) のためスクエア (平方) マイルとも呼ばれます。イングランド銀行をはじめとする古い建造物が建ち並ぶ一角は、過去にタイムトリップしたような印象を受けます。

シティは中世時代に王政の権力に対抗する自由都市として発展しました。周囲には街壁(ロンドンウォール)が築かれ、英国王ですら市長の許可なく立ち入ることができないほどの独立性を得たと言われます。その街壁の一部は現在もなお残り、ロンドン中心部には往時の外観のまま補修維持して使い続けられている建物が数多くあります。

こうしたシティに代表される古きを良しとするロンドンでも、近年、街並みが変わりつつあります。ロンドン東部のカナリーワーフ地区では、90年代以降、大規模な再開発が行われ、シティからも多くの金融機



今も残る昔の街壁、London Wall

関が移転しました。超高層ビルが建ち並ぶ光景は見る人を圧倒しています。

さらにロンドン中心部でも各所で再開発が進み、超高層ビルが建てられるようになってきました。昨年は西ヨーロッパの高さ (310メートル) を誇る複合ビル「ザ・シャード」が開業しました。ザ・シャードは複数の面が天高く伸びるデザインが印象的です。そのほかにも近未来的で斬新なデザインの高層ビルが建てられており、その形状から「ガーキン」(小きゅうりのピクルス) や「ウォーカー・トーカー」(トランシーバー) のように個性的な愛称でロンドン市民に親しまれています。本年央には、「チーズ・グレーター」(チーズおろし器) のようなビルが竣工する予定です。

このようにロンドンは中世時代の面影を残しつつも、近未来を感じさせるデザインの超高層ビルも増えており、過去と未来が息づく街として進化を続けています。

(日本銀行ロンドン事務所)

\*本コーナーは海外で働く日本銀行職員または日本銀行からの出向者が執筆しています。



西ヨーロッパ高いビル、ザ・シャード



チーズ・グレーター (左) とガーキン (右)